

講演会・カンファランス等のご案内

北九州地区小児科医会のご案内

第55回北九州地区小児科医会定期総会

日時 2019年1月20日(日) 13:30～

場所 リーガロイヤルホテル小倉

講演：「小児難病の早期発見と治療」

演者：熊本大学大学院生命科学研究部

小児科学分野教授 中村 公俊 先生

受付は13:30から開始します。

特別講演は14:00から開始します。

総会は15:10から開始します。

第553回北九州地区小児科医会2月例会

日時：2019年2月21日(木) 19:30～20:30

場所：小倉医師会館 4階

演題：「発生届が必要な感染症について

～麻しん・風しん・腸管出血性大腸菌感染症を中心に～」

演者：北九州市保健福祉局 保健予防課

医療指導担当課長 有門 美穂子 先生

産業医科大学カンファランス・セミナー

産業医科大学小児科クリニカルカンファレンス

日時：2019年1月21日(月) 19:00～

場所：産業医科大学大学2号館2階 2208教室

演題：血友病の治療戦略

～新規薬剤：ヘムライブラの使用経験を踏まえて～

演者：産業医科大学小児科

浅井 完 先生、伊藤 琢磨 先生

押田 康一 先生、本田 裕子 先生

産業医科大学小児科セミナー

日時：2019年1月17日(木) 19:00～

場所：産業医科大学大学2号館2階 2201教室

演題：小児外科common diseaseの最近の治療について

演者：産業医科大学小児外科

山内 健 先生

産業医科大学小児科クリニカルカンファレンス

日時：2019年2月18日(月) 19:00～

場所：産業医科大学大学2号館2階 2201教室

演題：腎尿細管異常症の3例

演者：産業医科大学小児科

斉宮 真理 先生、森下 高弘 先生

産業医科大学小児科セミナー

日時：2019年2月28日(木) 18:00～

場所：産業医科大学大学2号館2階 2208教室

演題：未熟児網膜症 up to date

演者：産業医科大学眼科

松下 五佳 先生

産業医科大学小児科

菅 秀太郎 先生

市川 俊 先生、荒木 俊介 先生

その他講演会などのご案内

第418回小倉小児科医会臨床懇話会

日時：2019年1月24日(木) 19:00～

場所：国立病院機構小倉医療センター地域医療研修センター

演題1：「肺炎球菌・Hib ワクチン接種率増加による

当院の侵襲性感染症への効果」

演者：北九州総合病院 小児科 山本 昇 先生

演題2：「髄液・血液培養とも陰性で16SrRNA 系統

解析で起炎菌を同定した細菌性髄膜炎の一例」

演者：北九州総合病院 小児科 渡邊 俊介 先生

第419回小倉小児科医会臨床懇話会

日時：2019年2月28日(木) 19:00～

場所：国立病院機構小倉医療センター地域医療研修センター

演題1：「短期間に3回肺炎・無気肺を繰り返した

1歳女児例」

演者：九州労災病院 小児科 茂見 紗喜 先生

演題2：「慢性甲状腺炎の様々な臨床像」

演者：九州労災病院 小児科 河田 泰定 先生

平成30年度予防接種研修会

日時：2019年2月27日(水) 19:00～

場所：市立商工貿易会館 2階

講演：2018年度の予防接種制度および予防接種対象

疾患の動向

演者：産業医科大学 小児科学教室 准教授 保科 隆之 先生

平成30年度ペリネイタルビジット研修会

日時：2019年2月15日(金) 19:00～

場所：総合保健福祉センター 2階 講堂

講演：「大分県における“妊娠期からのつながる仕組み”

～ペリネイタルビジット事業に始まった

医療機関と行政との連携～」

演者：大分県産婦人科医会 副会長

岩永 成晃 先生

第57回北九州小児血液・腫瘍懇話会

日時：2019年2月15日(金) 19:00～

場所：リーガロイヤルホテル小倉 4階 エメラルド

一般講演：

1. 「当院で経験した新生児同種免疫性血小板減少症」

北九州市立医療センター 小児科 武森 渉 先生

2. 「難治な経過を辿ったITP の一例」

産業医科大学 小児科学教室 押田 康一 先生

3. 「小児の縦隔腫瘍と気道症状」

田川市立病院 小児科 尾上 泰弘 先生

特別講演：「血小板異常とその臨床」

奈良県立医科大学 名誉教授 高橋 幸博 先生

保険診療メモ

健康保険適応のあるワクチン

健康保険に適応のあるワクチンがいくつかありますが、その適応は限られています。保険請求する際には、その適応がわかる傷病名やコメントの記載が必要です。

1、破傷風トキソイド；外傷後の破傷風発症予防で使用した場合

外傷を受けた際、破傷風トキソイドを抗破傷風ヒト免疫グロブリンと組み合わせて接種することで破傷風の発症を予防する方法です。創部の状態や、この予防接種の回数、最終接種からの年数を組み合わせて、破傷風トキソイド、抗破傷風ヒト免疫グロブリンの投与を行うかを判断することが推奨されています。

2、狂犬病ワクチン；暴露後（咬傷後）の発症予防で使用した場合

狂犬病は犬に限らずほとんどすべての哺乳類動物が罹患する。その咬傷によって人に感染すれば治療法は無くまず100%死に至る疾患です。日本では1957年以降（海外で犬に咬まれ帰国後発症した輸入症例を除いて）人にも動物にも発症していません。しかし、海外には狂犬病常在地が多く、注意が必要です。海外で狂犬病が疑われる動物による咬傷などの暴露を受けた場合は水と石鹼で傷口を十分洗い、アルコールやポピオンヨードなどの消毒液で消毒した上抗狂犬病免疫グロブリンと現行ワクチンによる発症予防をするように勧告されています。ワクチンの接種回数は1回目を0日として3,7,14,30,90日の6回です。破傷風ワクチンを併用する場合があります。以上は事前にワクチンをうけていない場合の対処法でワクチンを受けていた場合の対処法とは異なります。2018年度版予防接種ガイドラインに詳細については専門家の意見を求めることが必要とされています。

3、4価髄膜炎菌ワクチン（ジフテリアトキソイド結合体）；エクリズマブを投与する患者に使用する場合

エクリズマブ（商品名；ソリリス）は発作性夜間ヘモグロビン尿症における溶血抑制、非典型溶血性尿毒症症候群における血栓性微小血管障害の抑制、全身性重症筋無力症（免疫グロブリン大量静注療法又は血液浄化療法による症状の管理が困難な場合に限る）の適応を持つ抗補体（C5）モノクローナル抗体製剤です。本剤の投与により髄膜炎菌感染症を発症することがあり、死亡例が認められているため、添付文書の警告に緊急な治療を要する等を除いて原則本剤投与前に髄膜炎菌ワクチンを接種すること、必要に応じてワクチンの追加接種を考慮することと記載されています。

4、23価肺炎球菌莢膜多糖体ワクチン；「2歳以上の脾摘患者における肺炎球菌による感染症の発症予防」の目的で使用した場合

保険請求上は、摘脾していることが分かる傷病名またはコメントが必要です。

5、B型肝炎ワクチン；下記の3つの場合ですが、②では業務上の場合は労災保険、業務外が健康保険等の適応となります。

① 血友病患者に「B型肝炎の予防」の目的で使用した場合

② 「HBs抗原陽性でかつHBe抗原陽性の血液による汚染事故後B型肝炎発症予防（抗HBs人免疫グロブリンとの併用）」の目的で使用した場合

1) 当該負傷を原因としてHBs抗原陽性でかつHBe抗原陽性血液に汚染を受けたことが明らかで洗浄、消毒、縫合等の処置とともに抗HBs人免疫グロブリンの注射に加え、本剤の接種が行なわれた場合

2) 既存の負傷にHBs抗原陽性でかつHBe抗原陽性血液が付着し、汚染を受けたことが明らかで上記1)と同様の処置が行なわれた場合

③ 「B型肝炎ウイルス母子感染予防（抗HBs人免疫グロブリンとの併用）」の目的で使用した場合

1) HBs抗原陽性の妊婦から出生した乳児に対する抗HBs人免疫グロブリン投与及びB型肝炎ワクチン

添付文書にも、HBs抗原陽性の妊婦から出生した乳児に対するHBs抗原、HBs抗体の検査、抗HBs人免疫グロブリン投与及びB型肝炎ワクチン接種が健康保険で給付されることが明記されています。

また能動的HBs抗体が獲得されない場合には、追加接種をすることも記載されています。

2016年10月1日より開始された1歳未満の小児に接種される定期接種の対象とはならないので注意が必要です。

（福岡県小児科審査員連絡会）

役員会報告 (1月9日：水曜日)

協議事項・報告事項

- ① 第55回北九州地区小児科医会総会 (平成31年1月20日)
平成30年度総会に向けて最終調整を行いました。
- ② 北九州地区小児科医の会費値上げの件と施設長を含む福岡県小児科医会・九州小児科医会入会の件についての議案が出ました。総会での議事で三宅会長から説明がある予定です。

委員会報告

1. 学術委員会報告：神菌淳司
今後の講演会の予定です。講演会一覧参照ください。
2月は有門先生にご公演いただく予定を検討しています。
3月は神経懇話会と合同の予定です。